

令和4年

年頭あいさつ

飯南町長 塚原 隆昭



あけましておめでとうございます。
令和4年の初春を迎え、町民の皆さまに謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は、町政の推進に対し、温かいご理解とご協力を賜わりましたこと、厚くお礼申し上げます。
本年もどうぞよろしくお願いいたします。

町長に就任して間もなく1年が経過するところですが、昨年を振り返ると、新型コロナウイルス感染症対策と災害対応に明け暮れた一年だったと思います。

ちづくりに活かしていきます。

行政運営では、私自身、山崎前町長のバトンを受け取り、町民の皆さまからも第2代飯南町長としての舵取りをお任せいただき、新しい時代に向けたまちづくりの第一歩を歩み始めさせていただいたところです。

その上で、重点的に取り組む政策として、
「子どもたちの声が聞こえるまちづくり(少子化対策)」
「安心・安全なまちづくり」
「産業が元気なまちづくり」
「定住を進めるまちづくり」

「歴史・文化を感じるまちづくり」以上の5項目を掲げています。

長引くコロナ禍で、町民の皆さまの生活を応援するための、「ふるさと宅配便事業」「元氣回復券事業」「割増率を高めたプレミアム商品券」「事業所を対象にした雇用継続応援金(第4弾)」など通年で実施しました。

また、人材確保や定住促進への繋がりが期待される人材派遣会社

昨年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が心配される中で一年が始まりました。4月以降も感染が続き「感染拡大防止の切り札」として期待された「ワクチン接種」が始まり、本町でも4月19日以降、順次接種を開始しました。本町のワクチンの接種率は92パーセントとなりました。

現在、「新たな変異株」オミクロン株」が全国的に感染拡大の傾向にあり、県内でも年末から集団感染などが確認されています。本町でも1月初旬から3回目のワクチン接種を行っていますが、今後さらなる抜本的な対策が進み、1日で

「飯南町地域づくり協同組合」の設立や、高齢者支援を踏まえた新たな公共交通として導入した「自動運転サービス」のスタート、児童生徒1人1台のタブレットを整備した「GIGAスクール」の本格展開、子育て世代の意向を踏まえた「産休明け保育」の受入れ対象の拡大、トップセールスによる「飯南米」の販売促進の実施など、それぞれの分野で施策を進めさせていただきました。

さて、迎えた本年ですが、地方移住を希望する人のための月刊誌「田舎暮らしの本(宝島社)」で特集された「住みたい田舎ベストランキング」で、今年も本町が人口1万人未満のまちの部、子育て世代が住みたいまち「全国1位」にランキングされました。

これまで「子育て」「移住定住」に力を入れてきた成果と言えます。今後は「子どもたちの声が聞こえるまちづくり」の実現に向けて、「子ども広場」の整備など、子育て支援のさらなる充実を図っていきます。

も早く穏やかな日常生活が取り戻せることを願っています。

また、7月から8月にかけて発生した豪雨災害では、町内全域で甚大な被害を受け、町民の皆さまは不安な生活を強いられたことと思います。現在、復旧工事を順次発注していますが、町発注の工事だけでなく、県発注の工事も相当数あり、県との調整や優先順位を勘案しながら進めていきます。全ての復旧工事は、今後3カ年かけて行っていくこととなりますので、ご理解をお願いします。

今後、昨年の災害での対応を振り返り、その経験を安心・安全なま

ます。

また、町内にはさまざまな課題を抱えた高齢者介護施設があります。今後の望ましい施設の在り方を、介護ニーズや関係の皆さまのご意見を伺いながらまとめていきます。

結びに、町民の皆さまにとって住みやすい・住み続けたいまちとして、そして「笑顔あふれるまち飯南町」の実現に向け、しっかりと取り組んでまいりますので、一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

この一年、町民の皆さまには、お元氣でお幸せに暮らしていただきませう、心からお祈りし、年頭のあいさつといたします。

